

研究発表会実施概要

- 1 日 時 平成19年12月19日（水） 15時～
- 2 場 所 関西大学100周年記念会館 第2会議室
- 3 研究発表（15:00～16:00）
 - （1）森 隆男 文学部教授
発表テーマ「田園都市『千里山住宅地』の夢とその後」
 - （2）北詰恵一 環境都市工学部准教授
発表テーマ「社会基盤事業のリスクマネジメント」
- 4 大学側出席者
良永康平学長補佐 他

以 上

田園都市「千里山住宅地」の夢とその後

文学部教授 森 隆男

【概要】

大正中期、東京では緑豊かな郊外に西洋風の住宅地を整備して、都市部に住む中産階級を対象に分譲する事業が始まった。これらの住宅地は「田園都市」の名称を付してPRされたが、イギリスのハワードが提唱した「田園都市論」を日本流にアレンジしたものであった。その代表が多摩川住宅地、現在の田園調布である。ほぼ同じころ、関西でも同様の事業が進められた。大正12年に分譲が始まった「田園都市 千里山住宅地」である。田園調布と同様にヨーロッパ風のしゃれた駅舎が建てられ、ロータリー広場からは道路が放射状に建設された。当時流行のテニスコートも整備され、電気、水道、下水道、ガスなどの都市基盤も整備されて、快適な都市生活を保障する条件を備えていたといえる。

ところが、田園調布が順調に発展して計画通りに田園都市を実現していったのに対し、千里山住宅地はいつのまにか「田園都市」の冠も忘れ去られ、西洋風の街に神社や寺院、和風の住まいが建ち並ぶ「普通の街」になっていったのである。神社では例祭のほか、出征兵士が武運長久を祈り西洋風の駅舎をくぐって出征して行った。ロータリー広場や寺院の境内では、後に盆踊りも催された。

今回、田園調布とは異なった歩みをしてきた千里山住宅地の歴史をたどる。そこには合理的で、本音の選択をする関西の人びとの価値観もうかがえるようである。また、大正ロマンの風潮の中で誕生した「田園都市」は、住宅関連の博覧会とともに理想的な住宅地と住まいのあり方を追求する、わが国最初の試みであったといえる。

【プロフィール】

1976年に本学大学院を修了し、(財)日本民家集落博物館学芸員や尼崎市教育委員会学芸員を経て、2004年に現職に。この間、82年から本学の非常勤講師。大阪府立大学や近畿大学の非常勤講師も勤めた。専門は日本民俗学、民俗建築学で、文化遺産学のゼミを開いている。

有形の資料として得られる情報に儀礼や信仰など無形の情報を重ねることで、精神世界をより具体的にさぐろうとしている。そのため研究対象も身の周りにある大小のモノから景観まで多様である。特に、住居を一つの空間として総合的に分析する方法で、住居のもつ意味や他界観などを追求してきた。その結果は、博士論文でもある『住居空間の祭祀と儀礼』（岩田書院、1996）として出版し、同書は日本民俗建築学会の第1回奨励賞を受賞した。

映画「男はつらいよ」の大ファンで、寅さんと自分を重ねて葛飾柴又や映画のロケ地をぶらつくこともある。また「温泉大好き人間」で、フィールドワークの地では付近の温泉も探訪する。

社会基盤事業のリスクマネジメント

環境都市工学部准教授 北詰恵一

【概要】

道路や上下水道などの社会基盤は、それ自体の規模が大きい上に、自然や社会環境の変化を強く受け、かつ、非常に長期に渡って使い続けられるものである。従って、さまざまなリスクにさらされており、それらが発生したときの影響も膨大である。しかし、それらのリスクへの対応は、個々の担当者の経験に基づくものであり、体系化されていない。このことは、知らず知らずのうちに、あるいは必要以上に、犠牲を支払っていることを意味する。そこで支払う犠牲は、税金を原資とした財政支出によって賄われており、それを最小にすることが必要である。

リスクマネジメントは、体系的にリスクに対応することで、その影響を最小限に食い止める手法である。英国を始めとする海外では既に大きな実績をあげており、日本でも採用を進めるべきである。今回は、日本の社会基盤事業においてこれを導入するにあたって、事前の明確なリスク認識手法であるリスクワークショップや効果的なリスク対応を判断する上で欠かせないリスクの定量化の取り組みや民間とのリスク分担手法の考え方に関するいくつかの研究を発表したい。

【プロフィール】

昭和40年神戸市生まれ。東京大学大学院土木工学専攻修士課程を修了後、株式会社野村総合研究所での研究員勤務を経て、東北大学助手となり学位（博士（工学））を取得。平成14年より関西大学に勤務。専門は、地域・都市計画であるが、社会基盤事業の評価や運営に興味を持ち、費用負担のあり方やリスクに関する研究を進めている。土木学会では、インフラPFI研究小委員会リスクマネジメント部会幹事を務める。

以上